

地方競馬益金事業

題 字 岡山県知事 長野 士郎
 昭和61年 7月 1日発行
 財団法人
 中国四国酪農大学校
 電話 (0867)66—3651

学 園

だ よ り



も く じ

- 巻頭言 長期的な経営戦略 校長 石田正之…………… 9
- 若き夢 「一億円酪農をめざして」 新生 辻井宏治…………… 2
- 教務課あれこれ…………… 4
- 第一牧場だより…………… 6
- 第二牧場だより…………… 7
- 「酪農に夢を託して」 第十期生 吉原謙一…………… 9
- 同窓会だより…………… 10
- 卒業生・入学者名簿…………… 11
- 人の動き…………… 12
- 新人紹介…………… 12



長期的な経営戦略



校長 石田正之

卒業生の皆様にはお変わりなく、忙しい毎日をお越しのことと存じます。

昨年十一月には、本校の創立二十周年記念行事が、滞りなく実施されましたことは、関係各位のお陰と深く感謝しているところであります。

さて、昭和五十四年から実施されてきた牛乳の計画生産も、本年度は始めての減産計画という、かつてない厳しい年を迎えております。

これに加えて、円高による外国からの乳製品輸入の増大、国内での牛乳消費の停滞、これに伴う加工原料乳比率の増加による生産者乳価の低下等、酪農経営を取り巻く環境は一層深刻なものとなっております。

ただ、円高による飼料価格の大巾な値下りを見ていることは、経営者にとって明るい材料だと言えましょう。

こうした最近の酪農事情に

対して、今後どのように経営を対応させ、展開していくかが問題だと考えられますが、

第一には、個別経営としてはまずまず足元を固め、今後の酪農事情の変動に対応できる弾力性に富む経営を、じっくり作り上げていく心構えが重要で、いわゆる長期的な経営戦略が必要であろうかと思われまます。

第二には、健康食品としての良質な牛乳を国民に供給するために、乳質改善に一層努める必要があります。

また、酪農経営を発展させるためには、適正な乳価を要求することも当然であります。同時に消費者の立場から考えると、良質な牛乳乳製品をより安く供給することが望まれ、それが消費を増やすことにもつながりますので、一層の生産コストの低減に努めなければならぬと思えます。

第三には、自己蓄積力を強

めるため、自己の労働力、土地・施設を有効に活用しながら、高い生産を上げる集約的な経営をめざしていきたいもので、とくに地力の向上による良質粗飼料の自給力を強化し、乳牛の健康と泌乳増加を図る方向でコストの引下げに努めたいものです。

第四には、なるべく金をかけない経営の工夫が必要で、これまで経営の合理化とは、規模拡大、省力化といった考え方が多く、そのために施設に金をかける傾向が、負債増に連つていたように思われます。金をかけないで合理化する工夫がまだまだ考えられると思われ、共同するのも一つの方法ですし、農協などの生産組織の工夫が望まれるところであります。

第五には、酪農経営の新しい段階での複合化の工夫が必要で、単作、大規模酪農専門経営から、地域の条件に応じた他部門との再結合(一例として乳肉複合経営)が課題で、酪農家の生活に必要な食品の自給化を進め、日本の風土に合った日本型酪農経営を創造することで、EC諸国の酪農に学ぶところが多いと考えます。

最後に、当面している問題に対しては、個別経営の努力だけでどうにもならないものが多く、それには生産者同志の団結による組織的な運動が必要であります。生乳取引の問題、乳製品輸入増大の問題など、腰を据えてじっくり取り組んでいかねばなりません。また、良質な食品の安定供給

給を求める消費者運動とも結びつきを図ることも重要と思われまます。こうした地味な長期的な戦略に立って、団結した組織的運動を進めて行く以外には、わが国の酪農発展はないものと考えられます。卒業生の皆様のご健闘をお祈りしております。



若き夢

「一億円酪農を

めざして」

第22期生 生宏治
辻井 宏治
(兵庫県神戸市)

私の家は、神戸の港より六甲山をトンネルで抜け、車で四十分位の所にあります。大都會神戸といっても、都會のひとつかけらも感じられない田舎です。この様な自然に恵まれた環境の中で、我家は酪農を営んでいます。

我家に乳牛を導入したのは昭和三十四年のことです。それまで祖父は二、三頭の和牛（但馬牛）を飼い、二haあまりの田畑を作っていたようですが、父が近くの農業高校を卒業し、何か儲かることはいかと思え、一頭の乳牛を祖父に無理を言っ買って貰ったのが最初だったそうです。それが現在では酪農経営一本にしぼり、成牛七十頭、育成牛二十五頭の計九十五頭になり、常時六十頭搾乳、一日平均乳量は千二百kgで、年間粗

収益は五千百万円、純収益は千八百万円余りになりました。土地は山林、原野を含めると十haほどあり、飼料畑は五ha、これにイタリアン、トウモロコシ、大麦などを栽培しています。サイロは気密サイロ（五十m³）で六基あり、年間二回転半、一日一頭平均十五kgの通年サイレージ給与を行なっています。また粗飼料を生産するための作業用農業機械は全部揃えて、これを有効に利用しています。

父は酪農を始めて二十五年間、知識や技術を身につけて規模を拡大するために、大変苦労したといつも話しています。この間いくつかの問題点を一つずつ改善してきたが、まだまだ改良するところがあります。

その第一は、あまりにも規模の拡大を急いだために牛群の能力が低く改良が必要なこと。第二は、飼料畑が小さく高低差が大きいため、作業能率が悪く、特に収穫時にはたいへん労働過重になること。第三は、頭数に対して飼料畑が少なく、粗飼料を十分給与できないのと、放牧場がないので運動不足になり病気に

羅りやすいこと。

第四は、飼料畑に還元している糞尿の公害問題が起きてきたことです。

数年前、神戸市の計画している北神工業団地が、我家のある一帯に進出してくることあると決定し、今の牧場も将来移転しなければならなくなりました。そこで、これを機会に新天地で父と私は「酪農の夢」を実現するために、今大きな希望に燃えています。

それは、移転地で「一億円酪農」を実現することです。その代替地は現在地より北西に約二kmのところ、面積は三十ha（五百m×六百m）、このうち十九haを飼料畑に、十haを永年放牧場に、残りの一haを牛舎用地、宅地とします。そこに成牛百五十頭、育成牛三十頭飼うことです。父は乳牛を飼いはじめてから二十五年間で年間粗収益五千万円酪農を実現しましたが、私はさらにその上を考えて、「一億円酪農」を目指します。そのためには粗飼料の生産体系をまず完備し、牛舎はフリーストール牛舎、搾乳は頭数が多いのでロータリーパーラー方式とし、飼料の給与は自家配合のコンブリードにしま

す。そうすると牛は運動が十分できるので元気をとりもどし、現在は四〇五産しかとれない子牛が、七〇八産には伸びるのでないかと思つています。その他、神戸市にはヘルパー制度がないので、休みがとれないという大きな悩みがあります。常雇いを二人いれると、これは解消できると思われま。

そこで先にあげた四つの問題点の解決法ですが、まず第一に牛の改良については、現在研究が進み、実用化まじかの受精卵移植を行なえば、今まで雄の側からの改良だけだったものが雌側からも可能になり、改良が大幅にスピードアップされるので、ぜひこの方法も試み高能力の牛群に揃えたいと思います。

第二は飼料畑の問題ですが、代替地は現在地よりも造成すれば高低差が少なく三十haを一ヶ所に集めることができるので、作業もずいぶん楽になります。第三は飼料畑が少なく粗飼料が不足気味でしたが、移転すれば今以上の面積を確保できるので運動ができ、病牛の出る割合はうんと減るのでないかと思ひます。

第四は飼料畑に還元している糞尿の公害問題ですが、これは保成堆肥処理方式（堆肥中にプロアポンプで強制通気をし、好気発酵により温度が六十〜七十℃となるので悪臭が弱くなり雑草の種子やハエの問題もかなり解決する）をぜひ取り入れて、特に臭公害の除去をしていきたいと思ひます。

この外、余裕があればキング式の牛舎を建て、この中で数頭の乳牛を飼う都市近郊の特性を生かして観光酪農も考えています。

この移転地には私の住んでいる二十戸ほどの小部落がそっくり移転します。この中には果樹園農家や園芸農家もあり、この方へ先に述べた堆肥を販売する話も、私の発案で今父が進めてくれています。「一億円酪農」を実現するために、本校で学び自分の手で牛の改良を進めるためにも必ず、家畜人工授精師の免許を取ります。最後に、貿易の自由化により外国の酪農と競争しても負けない儲かる酪農経営をするために、今後一生懸命学習し、夢が実現するように精進する覚悟です。

凍結受精卵移植による

和牛双子生産に成功

酪大では、実用化真近となつたバイオテクノロジーの先端技術である受精卵移植を、学生に学習させるとともに、将来の乳牛改良をにらんで、昭和六十年年度から受精卵移植に取り組んできましたが、六月二十四日早朝、借り腹のジャージー牛から待望の双子の和牛が誕生しました。

双子はともにメスで、第一子が三二・六kg、第二子が二二・四kgでしたが、スクスクと育っています。

今回の双子誕生に用いた受精卵は、岡山県和牛試験場で採取、凍結した二卵で、昨年九月三十日に同試験場の協力を得て移植したものです。

この他にも、ジャージー一頭が受精卵移植により受胎しており、十月に出産する予定になっています。

今後は、酪大独自で採卵・移植ができるよう更に研究を重ね、学生の実践教育と乳牛の飛躍的改良に役立てていく計画です。

ビデオ・パソコン購入

本校の実践教育を更に進めるため、昭和六十年年度から講義と実習を連動させるための演習科目を講義に取り入れていますが、講義内容を更に充実させるため、ビデオカメラとデッキをセットで購入しました。

牛の分娩過程などを撮影し講義に役立てるほか、学生募集のためのピーアールフィルム、校外研修先の農家紹介などに役立てています。

さらに昭和六十一年度は、パーソナルコンピュータを購入し、時代の要請であるコンピュータによる飼養管理や情報処理に活用する計画です。



元気な和牛の双子



短期専攻生入学

将来の進路のために酪農体験を―と県立操山高校の女生徒が三月二十四、二十五の二日間、本校に短期体験入学しました。

体験入学したのは同校二年生の瀬島恵さん、光元淳子さん



操山高校のお嬢さん達(前列)

ん、井戸恵子さんの三人で、三人とも岡山市内のサラリーマン家庭の育ちですが、将来は農学部、薬学部へ進学を希望するお嬢さんたち。

二十三日夜から職員研修センターに泊まり込んで、牛舎の掃除や搾乳、子牛の授乳を体験しました。幸い二日の間に四頭の子牛も生まれ、彼女達の感激も一層大きなものになったようです。

獣医志望の瀬島さんは「牛は想像していたよりもずっと大きくて、最初は少し怖かったけど、みんなとてもやさしい目をしていてすぐに可愛いなと思うようになり、牛がとても身近な動物のように感じられました。

でも牛はとても可愛いけれど

ど、飼うことはとても大変であることを知りました。これからは牛乳を飲む時、そのことを思い出さなければならぬと思います。」と感想を述べていました。



間伐材利用の育成牛舎

育成牛舎完成

真庭郡内産の間伐材を利用したジャージー牛育成牛舎が第二牧場に完成し、五月二十一日に県から貸与されました。

育成牛舎は、間伐材の利用対策の一環として真庭地方振興局が建設したものであり、建築面積百五十三平方メートルの二階建てで、一階に十五頭のジャージー牛を収容。二階は乾草庫などになっています。

幸福の輪を広げる

天皇お手播の松の横にある畑に繁殖し、「幸福を呼ぶ花」として知られるスズランの花二百鉢を、和気郡和気町の和気老人ホームをはじめ、東備地域の七つの福祉施設に寄贈しました。

スズランの寄贈は、昭和五十九年から福祉施設の皆様の幸多からんことを祈って贈り続けているもので、今年で三年目。

お年寄たちは届けられたスズランに「いい香りだね」と大喜びで、早速、本校一年生の女子学生二人と一緒に、中庭の花壇に移植しました。今後も高原の香りを贈り続けていきたいと思っています。



和気老人ホームで(昭和61年5月22日)



パーラーの説明をする植木次長

「新熱中時代」

ロケ隊来る

去る六月二十九日、日本テレビ系で放映中の「新熱中時代」のロケ隊が、五台のバスを連ね第二牧場を訪れました。

ロケ隊は主演の榎原郁恵、俳優の蟹江敬三を中心に、修学旅行という設定で、パーラーの搾乳作業を見学する場面を収録しました。

パーラーの説明場面では、植木次長が特別出演し、榎原郁恵と会話をした唯一の人となりましたが、放映後の反響が今から心配されます。

アイドル歌手来校の噂を聞きつけた学生達は、数日前から落ちつかず、サイン用の色紙、帽子、ツナギ服等の準備に走りまわっていました。

創立二十周年記念大会

盛会裡に終る

財団法人中国四国酪農大は、昭和四十年十一月に、企業としての酪農経営を習得させる目的で、前身の岡山県立酪農大を母体として設立されて以来、すでに二十年を経過するに至りました。

この間、本校の卒業生は五六一名(県立時代を含めると六四五名)の多くに達し、その約八〇%の者は酪農自営者として、あるいは畜産関係職場において、各地域での酪農の中核的リーダーとして活躍されております。

これを祝い昨年十月十五日には川上・八束小学校の三、四年生を招き、一日体験入学



記念式典(昭和60年11月8日)



1日体験入学(子牛への哺乳)

として、第二牧場において哺育の体験、写生大会を実施しました。子牛に触るのが初めての子供も多く、当日は一日中三木ヶ原に黄色い歓声が響きわたっていました。

更に十一月八日には、中国四国農政局長、岡山県副知事ほか多数の来賓、卒業生、関係者の御出席を得て、第一牧場を会場に記念式典が盛大に挙行されました。

当日は、茨城大学助教授、田中利見先生の「牛乳の消費拡大と酪農の将来について」と題した記念講演に続き、功労者や永年勤続者に対する表彰状の贈呈、記念植樹(ヤマボウシ、ナナカマド)が行われました。また、約二五〇名の出席を

得て、夕方から蒜山高原センターにおいて開催された記念祝賀パーティーでは、錢大鼓や歌謡バンドなどのアトラクションが繰り広げられるなか、参加者は旧知の顔を探し出し、況の話に花を咲かせ、旧交を暖めておられました。

これを機に同窓の輪が更に広がるとともに、酪農大が三十周年に向け更に繁栄することを切に希望する所です。

功労者表彰

美土路啓典
常守 実

永年勤続表彰

戸田 道子
三牧 孝徳

感謝状

川上 村
津田 清子
八束 村



記念植樹



卒業生の皆様、お元気でしようか。

第一牧場では、職員移動で野口先生が岡山県営食肉地方卸売市場へ転勤となり、後任として教務課より馬場先生が配置され、共に頑張っていますので、お近くにおいでの際は気楽にお立ち寄り下さい。

さて、第一牧場では、昭和五十一年度より乳量検定を実施してはいますが、今後の参考とするため最近三年間の成績を集計してみました。

飼養状況

年間の平均飼養状況は、表Ⅰに示すとおり大幅な変化はありませんが、搾乳牛率八十三・三%から八十八・五%と目標とする八十%以上の率となつています。しかし、分娩間隔は目標の三百八十日より四十五日長くなっており、空

胎期間を短縮するよう改善しなければなりません。

生乳生産状況

牛群全体の年間生乳生産状況を表Ⅱに示しました。

総乳量は三年間で二万kg増加しており、昭和六十年には搾乳牛一頭当り平均七千kg、総乳脂量八千kg、乳飼比二十八・五%、飼料効果二・〇%となっております。

個体別に乳量分布をみると、表Ⅲのように三百五日補正乳量で、昭和五十八年には六千kg以上の頭数が二十六頭中五頭(十九%)、昭和五十九年には二十六頭中十二頭(四十六%)、昭和六十年には二十四頭中十八頭(七十五%)と、個体別乳量の増加は著しく、改良が進んでいることがわかります。

表Ⅰ 飼養状況

項目	年次	58	59	60
平均経産牛頭数		36.7	33.6	34.9
// 搾乳牛 //		30.6	28.2	30.9
// 年 令		5.0	4.1	5.1
// 産 次		3.4	3.4	3.5
// 分娩間隔		416	411	425
// 乾乳日数		74	74	64
// 初産年令		2.3	2.4	2.2

表Ⅱ 生乳生産状況 (単位:kg)

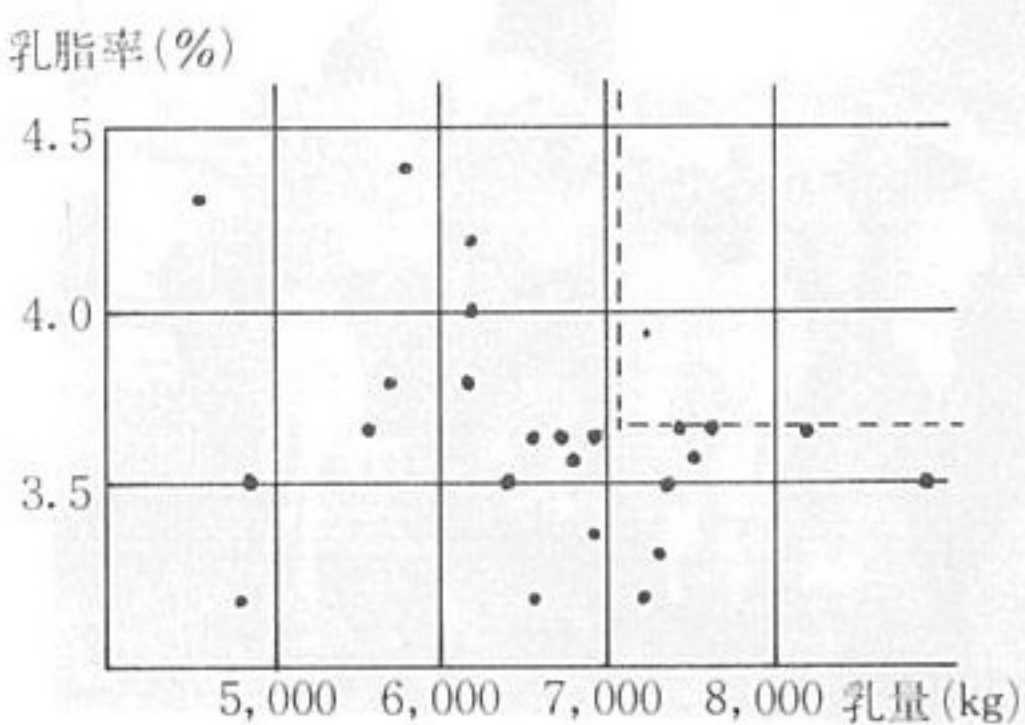
項目	年次	58	59	60
総乳量		195,786	199,513	215,255
経産牛1頭当り乳量		5,329	5,939	6,172
搾乳牛当り乳量		6,392	7,076	6,962
総乳脂量		6,902	7,102	8,078

また、昭和六十年における産次別乳量分布、補正乳量と乳脂率による分布を図Ⅰ、Ⅱに示しました。

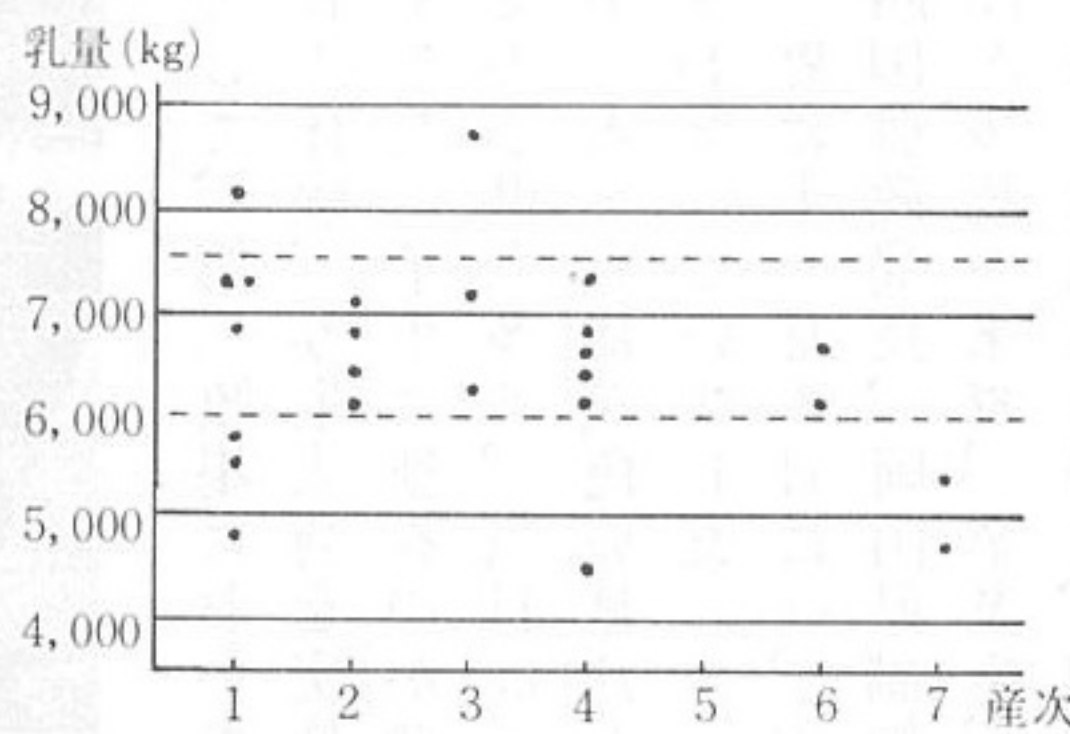
まず産次別にみると、各産次とも六千kgから七千五百kgの間に多くが分布しており、初産と七産で六千kg以下のものが目立っています。図Ⅱで示すとおり、牛群の補正乳量と脂肪率の平均である七千kgと三・七%以上の頭数はわずかに三頭となっており、この枠内に頭数を増やすため、本年も飼養管理の改善と乳量、乳質の改善度が高い種雄牛を供用することに努め、乳量六千kg以下、脂肪率三・五%以下の十頭については、淘汰対象牛として順次更新し、牛群の改良、そして経営の改善を計ろうと頑張っています。皆様の御意見等お聞かせ下さい。

表Ⅲ 個体別乳量頭数 (単位:kg、頭)

乳量	年次	58	59	60
8,000 以上			1	2
7,000~8,000 未満			3	6
6,000~7,000 //		5	8	10
5,000~6,000 //		13	9	3
5,000 未満		8	5	3
計		26	26	24



図Ⅱ 補正乳量と乳脂率による分布



図Ⅰ 産次別乳量分布(305日補正)



左から 樋口、森本、馬場

最後に場員の紹介をします。森本博之(三十六才) 鏡野町出身の酪大二年目。真面目一途な娘二人の父親。馬場 誠(二十六才) 鳥取大学卒業後二年目の明るく活発な独身貴族で、野球、ゴルフ、テニス、釣り、さらには書道にまでの人間投資家。繁殖管理に燃えている。樋口照夫(三十七才) 本年度七年目、自給飼料生産のベテラン。昨年十一月和寿ちゃん誕生により仕事に張りができたとのこと。

以上第一牧場の成績についてお知らせしましたが、本年度から計画生産量を示され、きびしい年となりそうです。卒業生の皆様も身体に気をつけ、一層の御活躍をお祈りします。



卒業生の皆様には、御元気で御活躍のことと存じます。さて、第二牧場の現況ですが、先ず職員から。

職員について

四月の人事移動で、山本技師が東備地方振興局へ転出し、後任として木曾田技師(新採)が配置され、六名中一名が入れ換わりました。

なお、各職員の紹介を簡単にさせていただきます(下記)

ジャージー牛飼養状況

昭和六十一年四月一日現在の飼養頭数は、表一のとおりで、成牛百十頭、育成牛二十七頭、肥育牛十八頭の合計百五十五頭となっています。

そのうち搾乳牛では昭和四十六年生まれの子産を筆頭に平均三・九産となっています。

表2 牛群検定年間成績

(昭和60年)

平均経産牛頭数	94.4頭
平均搾乳牛頭数	79.6頭
総乳量	350,511kg
経産牛1頭当り乳量	3,713kg
搾乳牛1頭当り乳量	4,403kg
総乳脂量	17,006kg
総濃厚飼料給与量	137,951kg
総乳代一総濃厚飼料費	33,741円
平均乾乳日数	71日
平均分娩間隔	399日
平均初産年令	2才2月
平均年令	5才6月
平均産次	4.0産

牛群検定年間成績

昭和六十一年の検定成績を表二に掲げておりますが、搾乳牛率八十四%、搾乳牛一頭当り乳量四千四百kg、脂肪率四・八五%、飼料効果二・五、乳飼比十九・一%となっています。

昭和六十一年度は、夏の長雨と干魃により粗飼料の生産、中でもトウモロコシの生産に若干の影響が認められました。が、この成績はまずまずと思われまます。

肥育牛の状況

ジャージー牛の再利用を図るため、二十カ月令、体重四百五十kgの目標を設定し肥育を行っておりますが、現在の成績は、出荷月令十八・五カ月、体重四百三十四・八kg、DGO・七七が平均値となっております。

表1 ジャージー牛飼養頭数

(S.61.4.1現在)

区分	成牛				育成牛				合計
	搾乳牛	乾乳牛	未産経牛	小計	12カ月以上	6カ月12月令	6カ月未滿	小計	
雌	85	9	16	110	6	12	9	27	137
雄					11	5	2	18	18
計	85	9	16	110	17	17	11	45	155

受精卵の移植について

新技術の導入として、昨年度から和牛試験場、家畜保健衛生所の指導を受けて凍結受精卵の移植を実施し、一頭が分娩し、もう一頭も十月分娩予定です。採卵も含め、今後取り組みたいと考えています。

第2牧場スタッフ紹介

草苜 耕造



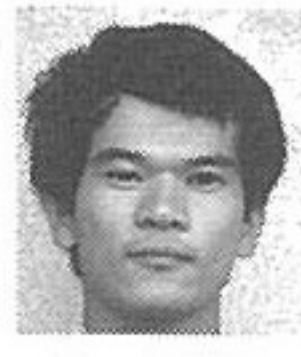
津山市上田邑原産。酪大3年生。花なら蕾の様な人、何故なら、今日もサケサケ明日もサケ(酒?)。2牧の攪拌機。

権代 将人



勝田郡勝央町原産。酪大2年生。種付けだけでは不満足、今年ETにも取組むと意欲満々。(我が家の種付けも忘れずに!!) 2牧の推進力。

木曾田 繁



岡山市藤田原産。酪大新入生。北海道から4月初め、1日、生まれての地、片道キップをもらって着任。2牧の良識(考える人)。

三牧 孝徳



地元、川上村産。酪大21年生。家に帰ればオジイサン、孫を風呂に入れてからの1杯が格別とか。2牧では通称オトウサン。2牧のイキジビキ。

磯田 博



阿哲郡大佐町原産。酪大10年生。搾乳ヨシッ、トラクターヨシッ、圃場ヨシッ、ゴルフヨシッと何でもこなす器用者。ちなみに、酪大ハンディはシングル? 2牧のP.T.O。

有富 勝仁



地元、八束村産。酪大2年生。牛の管理、草地の維持、家での消防団に忙しな毎日の後継者の優等生。2牧でも後継者。

以上、第二牧場の近況を簡単にお知らせしましたが、今後益々の牧場の発展充実のため、職員一同更に努力致した

いと思っております。卒業生の皆様もお気軽にお立寄りの上、御意見等をお聞かせ下さい。

酪農に 夢を託して

第十期生

吉原 謙一

(岡山県津山市)

『昭和六十一年一月三十一日に津山市で開催された、第二十四回岡山県酪農研究発表大会において最優秀賞に輝き、十二月の全国大会に出場予定のものです。』

当日は酪大の学生も参加し、最後まで熱心に聞かせて頂きました。 — 教務課 —

はじめに

我が家の牧場が所在する和気山酪農団地は、津山市の東南から久米郡、柵原町にかけて、総面積百ha(草地六十ha)、標高二百七十mの山頂にあります。

我が家の酪農のあゆみ

我が家の酪農は、昭和二十一年、父が育成牛一頭を導入したのがはじまりで、地域で最も早く酪農に取り組み、野菜との複合経営でした。

昭和四十五年、津山市の事業主体で造成する酪農団地に入植が決まり、昭和四十七年六月、待望の新天地和気山酪農団地に成牛十二頭、育成牛

九頭の乳牛とともに、家族全員で移転しました。入植者は、我が家を含め五戸の個人経営で、皆同じ夢を求めた同士であります。

経営の推移と現況

経営の推移は表一の通りです。第二表に、費用と生産原価。第三表に損益計算を示しました。厳しい酪農情勢の中で、低コスト生乳生産は重要なことでもあります。百kg当たりの生産原価は、五十八年、五十九年と着実に下がっており、所得向上につながっています。

経営の取り組みと目標

私は、酪農大学を卒業し、経営に参加した時点から今日まで、次の三つの目標をもって取り組んできました。

自給飼料・飼料作物の増産
自給飼料の確保、増産により低コスト牛乳生産、良質粗飼料の適正給与により牛群の能力向上をめざす。

十二haの草地は、五種混播の永年草地で、急傾斜地の山で開墾のため更新も行えず、牧草の収量もあまり多いものではありませんでした。草地は全面放牧利用とし、放牧できない冬期は、濃厚飼料と稲ワラに頼る飼料給与になり、

経産牛一頭当たりの乳量は低く、乳質も良いとは言えませんでした。サイレージ給与をしなければ、我が家の経営の向上はない。現在の放牧型の管理に、通年サイレージ給与を組み合わせた飼養管理をしたいと思うようになりました。五十七年に牧場続きの山林二・五haを買い、飼料畑造成することができ、他の造成地と合わせ三・五haの飼料畑に、トウモロコシ、エン麦、イタリアンを作付けし、五十九年より念願であった通年サイレージ給与が行えました。近距離の飼料畑と、地形を利用した落とし込みサイロのため作業効率は良く、刈取時期、水分調整、添加物等を配慮して、出来上がったサイレージは良質で、その成果は乳量、乳質、牛の状態等にはっきりと現れました。



御家族(左後 謙一さん)

乳牛の改良

能力・体型の両面より、個体の向上、牛群の向上をめざす。酪農経営において、優良牛の選抜、駄牛の淘汰ということは最も大切だと思います。多頭飼育の現在でも、個体の能力の把握こそが安定経営の第一歩だと思ひ、五十四年より牛群検定事業に加入し、その成績は表にし、大いに活用しています。体型面においても、すぐれたものを造り出すよう努力し、共進会、B・Wショウには進んで出品しています。自分で種牡牛の選択・種付けをし、自分の牛を造り出す喜び、ショウでの入賞の感激は牛飼いでなければ味わえないものであり、経営においてもプラスになっていると感じています。

経営の記録・記帳
経営の数字を常に記録、把握し、将来の目標・計画をたてる。個体の黒板は牛舎内の全頭に活用し、前回分娩、種付、次回発情予定等家族のだけが見てもわかり、特に発情の見のがしが少なく、平均分娩間隔十三カ月以内は数年続いています。牛舎に取り付けた大型の黒板には、行事、作業内容、種付、分娩、治療、

販売等あらゆる出来事を書き、月の終わりに各項目ごとにノットに仕分け記帳します。個体毎のカルテも作り、初産からの繁殖関係、能力、病気の治療等その牛を廃用するまで書き続けています。その他、制度資金の償還計画表、飼料作物管理、一日の乳量、月の乳量、乳質、乳代、飼料代、乳飼比等、記帳・集計し経営分析を行っています。

地域グループのつながり
私達の和気山酪農組合では、毎月一回の月例会、家畜改良事業団の先生を招いての研修会、牧道、水源地等の共同作業、年一回の健康診断、慰安旅行を行って同志としての結束と経営の向上をめざしています。乳牛改良同志会、酪農研、農協青年部等の活動にも積極的に参加しております。

今後の経営方針
検定成績表を活用し、牛群の改良を図るとともに、経営の記録、記帳を怠らず数字による経営の判断と充実に努めます。土壌分析・サイレージの品質分析等を行い、飼料畑を高質に利用し、良質の飼料作物

度

の増産をめざす。
 乳量のみ追求でなく、良質・低コストでの牛乳生産を行い、安定した酪農経営を行う。
 立地条件を生かし、足腰の強い牛に育成し、初妊牛としての販売、淘汰、肉転牛の効率の良い販売を行う。
 経産牛の放牧は、牛の疲労を考慮して一日二時間とし、生涯能力を発揮させるよう努力する。
 終わりに
 経営に参加し十年、経営も少しづつではあります向上しています。七歳の長男、六歳の次男も進んで牛舎に入り、作業を手伝ってくれます。この子供達のために忙しい毎日であっても、年一回は、一泊から二泊の旅行を行っています。
 私は経営面でも生活面においても、家族での話し合い、助け合いは最も重要なことであると思っています。私は単に酪農後継者というのではなく、自分の選んだ自分の道を、常に経営の安定・向上をめざし、夢をもって家族とともに歩めることを幸せに思います。

表1 経営の推移と現況

項目		年次				項目		年次			
		58	59	60	65 (目標)			58	59	60	65 (目標)
家 族	家 族 (人)	9	9	8	8	内 容	経産牛頭数(頭)	44.4	46.4	46.0	50.0
	労働力(人)	4	4	4	4		育成牛頭数(頭)	38.0	38.3	39.0	35.0
放牧草地 (ヘクタール)		11	11	11	10		総生産乳量(kg)	245,023	313,592	318,732	400,000
	(内借地)	(10)	(10)	(10)	(10)		経産牛1頭当年間乳量	5,518	6,758	6,929	8,000
飼料畑 (ヘクタール)		3.5	3.5	3.5	4.5		脂肪率(パーセント)	3.40	3.59	3.64	3.75
	(内借地)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)		乳飼比(パーセント)	50.5	41.9	41.0	37.3
山 林 (ヘクタール)		7.0	7.0	7.0	7.0		分娩間隔(月)	12.5	12.4	12.6	12.5
田 (ヘクタール)		0.7	0.8	0.8	0.8		所得率(パーセント)	28.3	36.3	40.9	47.8
計		22.2	22.3	22.3	22.3						

※ 所得率 = 所得 ÷ 酪農収益

表2 費用と生産原価 (単位:千円)

項目		年			
		58	59	60	65
飼料費	購入	13,456	14,665	14,518	16,600
	自給	990	1,701	1,756	1,800
	計	14,446	16,366	16,274	18,368
敷料費		0	0	0	0
育成牛購入費		0	0	0	0
労働費	家族	4,843	4,843	4,843	4,843
	雇入	0	0	0	0
	計	4,843	4,843	4,843	4,843
診療衛生費		542	613	655	680
種付費		272	238	250	370
水道光熱費		833	864	858	870
償却費	乳牛減価償却費	1,115	1,104	1,056	1,200
	建物費	1,686	1,219	1,253	1,135
	農機具費	2,288	2,448	2,405	2,256
雑費		1,052	981	1,002	1,100
当期費用合計		27,077	28,676	28,596	30,854
期首育成牛評価額		2,856	3,025	2,622	2,800
合計		29,933	31,701	31,218	33,654
期末育成牛評価額		3,025	2,622	3,054	2,800
育成牛販売収入		2,004	1,684	2,075	2,500
副産物価格		185	350	382	400
差引生産原価		24,719	27,045	25,707	27,954
牛乳100kg当たり生産原価 (単価:円)		10,088	8,624	8,065	6,988

表3 損益計算 (単位:千円)

項目		年			
		58	59	60	65
酪農収益	牛乳収入	26,596	34,925	35,571	44,500
	子牛育成牛販売収入	2,004	1,684	2,075	2,500
	その他	504	688	746	700
計		29,107	37,297	38,392	47,700
生産費用	当期費用	27,077	28,676	28,596	30,854
	期首育成牛評価額	2,856	3,025	2,622	2,800
	小計	29,933	31,701	31,218	33,554
	期末育成牛評価額	3,025	2,622	3,054	2,800
差引生産原価		26,908	29,079	28,164	30,754
売上総利益		2,199	8,218	10,278	16,946
販売管理費	販売経費	538	685	721	800
	租税公課諸負担	468	623	654	750
	その他雑費	185	192	196	200
計		1,191	1,500	1,571	1,750
事業利益		1,008	6,718	8,657	15,196
事業外収益	償却対象処分益	3,285	2,864	2,930	3,500
	その他	160	185	192	195
	農産収入	0	0	0	0
計		3,445	3,049	3,122	3,695
事業外費用	支払利息	658	654	522	501
	支払地代	393	393	393	393
	償却対象処分損	0	0	0	0
	計	1,051	1,047	915	894
当期総利益		3,402	8,720	10,864	17,997
自家労働見積額		4,843	4,843	4,843	4,843
所得		8,245	13,563	15,707	22,840

△同窓会だより▽

県立一期～四期

合同同窓会のあれこれ

盛夏、恩師先生、卒業生皆様公私共々多忙中のことと存じます。

さて私事ですが、昨年未だ松井先生宅に一泊いたしました。杯を重ねることにメートルも上がり、昨年の財団二十周年記念式典の盛り上りを聞くにつけ、わずかな期間ではあった県立時代の創設期、恩師先生共々苦楽した過ぎし日の思い出話の場を催す話が進みました。一月二十五日、芳形先輩宅で宮永、板谷、久永私とで、合同同窓会を三月二日に岡山市宝伝「松乃荘」で



恩師を囲んで(昭和61年3月2日)



第十九期生の同窓会

僕たち十九期生は、昨年の十月二十八日、二十九日に、蒜山の国民休暇村において同窓会を行いました。

酪大を卒業してから約半年、やっと今の生活に慣れ、仕事に慣れ、余裕ができた反面、同期生はどうしているか、お世話になった職員の方々とは酪大、蒜山がなつかしくなった頃だったと思います。

当日は、休暇村に職員の方方、後輩たちを招待して楽しい時を過しました。話題は、それぞれ卒業から今までの経過、仕事について、また職員の方々や後輩から聞く、現在の酪大の様子などが中心になったと思います。



懐しき学園生活(スキー大会)

今年も同じ頃に、第二回目の同窓会を計画しています。今度は同期生がどんなに変っているか、どんな話題が出てくるか楽しみです。

(第十九期 足立義隆)



第20期生卒業式

十八名の新入生を蒜山に迎える

昭和六十一年度の入学式が四月七日、岡山県農林部長をはじめ多数の来賓を迎えて挙行されました。例年より二日遅い入学式でしたが、当日は厳しい酪農情勢を象徴するかのようには雪が舞い降り、寒い一日となりました。

しかし、遠くは石川県、奈良県から集った十八名の新入生達の頬は、みな一様に紅潮し、新しい時代の酪農経営を目差す強い意気込みが感じられました。

また、式後に行われたOH Kテレビのインタビューでは、初めてのテレビ出演でもあり、新入生は緊張した面持ちで抱負を語っていました。

昭和六十年 卒業式挙行

先進的酪農経営を目差す若者十二名が、三月二十七日、二年間の学園生活を懐しみつつ、まだ雪の残る母校を巣立っていきました。

卒業生が一日も早く酪農経営者として、また社会人として自立できるように、先輩諸氏並びに関係者の皆様の特段の御支援をお願い致します。



テレビ局の取材を受けて

(二期生 落合暉雄)

人の動き

昭和六十一年四月一日付けの定期異動で、石原次長が退職された他、次のとおり諸先生の異動がありました。

退職者

次長 石原 健

(岡山県家畜畜産物衛生指導協会)

転出者

総務部主任 渡部哲矢

転出先 津山環境保健所

教務課長 中山敏之

転出先 岡山地方振興局畜産係

第一牧場技師 野口竜三

転出先 県営食肉地方卸売市場

第二牧場技師 山本康廣

転出先 東備地方振興局畜産係

現職員名簿

(四月一日現在)

校長 石田正之

次長 植木富士男

総務部長 齊藤俊之

主事 片山賢二

主事 津田清子
運転技術員 池田富幸
調理技術員 道祖タカ
教育部 重近文男

教育部長 (教務課) 大塚武宣

技師 秋山俊彦

技師 森本博之
馬場 誠
樋口照夫

場長 (第一牧場) 草苻耕造
権代将人
木曾田繁

技師 三牧孝徳
磯田 博
有富勝仁

助手 助手

新人紹介



次長 植木富士男

名前のとおり、植木(盆栽)が好きで酪大勤務二回目の良きお父さん。釣果は聞きませんが、川釣りも数多い趣味のひとつのようです。



教務課技師 大塚 武宣

東備振興局から家族と共に赴任。若干二十二才と学生には言っているが、三十二才の子連れ。七十キロあった体重も六十四キロに落ち、徐々に酪大向けのスタイルになりつつあります。



教務課技師 秋山 俊彦

車とコンピュータが趣味で、食べ物ではカレーライスやトンカツ定食が好きという昭和三十六年生れの現代青年。蒜山の地で結婚生活を送りたいのが夢ですが、肥育向スタイルが少々気になるころ。



総務課主事 片山 賢二

県庁生活二年目を酪大で過ごすことになった落合町生れの二十四才。学生時代は東京の高層ビル街で働くのが夢だったそうです。



第二牧場技師 木曾田 繁

雪の北海道から蒜山へ直送された社会人一年生。少ない給料が彼女(?)への電話代のため更に少なくなるのが悩み?

学生募集のお願い

酪大では昭和六十二年度の学生募集を次のとおり行っています。

近年入学者数は二十名を下回る状態が続いていますので、酪農後継者へ推奨いたいただくなど、皆様の御支援をお願いいたします。

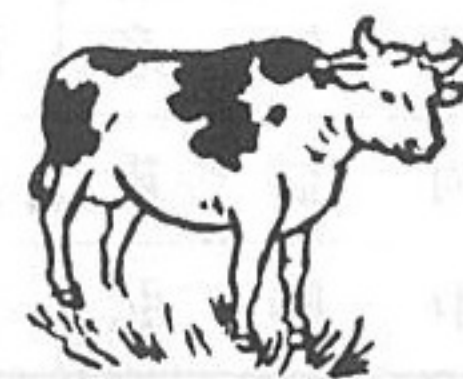
- 一 募集人員 四十名
- 二 修学期間 二カ年
- 三 受験資格 高等学校を卒業した者

(卒業見込の者を含む)及びこれと同等以上の学力があると認められる者。

四 願書受付期間 昭和六十一年十月から昭和六十二年三月まで

五 選考方法 書類審査、筆記試験及び面接

その他詳しい内容を知りたい方には、学生募集案内を送りしますので酪大教務課まで御請求下さい。



編集後記

卒業生の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。

学園だよりも十八号を数えるに至り、毎号楽しく読んでいただけることを念じて作成しておりますが、ややもすると学校からの一方通行の内容となってしまう傾向にあり、残念に思っております。

今後は新設の同窓会だよりのコナを更に充実して、卒業生の皆様の相互連絡の場としても活用していただき、学校と同窓生の連携を更に強めていきたいと考えております。同窓会や同窓生の結婚の話題、地域グループでの活動など数多くの御寄稿、御意見を寄せさせていただきますようお願い申し上げます。